

市の財政事情

「何気ない日常に幸せを感じるまちづくり」を進めるための市の財政
8～10ページで昨年度の決算状況をお知らせします

問い合わせ 企画財政課 ☎(740) 1130

※金額は全て端数を省略し、概数で表記しています

一般会計決算規模は
前年度より減少

福祉や教育、消防など、市が日常的なサービスや生活基盤の整備を行うための一般会計。令和元年度の歳入は550億円、歳出は545億円となりました。

歳入は、昨年から18・9億円減少。主な要因は、キセラ川西プラザ整備事業終了などにより、市債の借り入れが26・2億円減少したことによるものです。

歳出は、昨年から19・7億円減少。令和元年度に実施した主な事業は、消防本部・南消防署の整備(13・9億円)、

歳入では市債の借り入れが26.2億円減少
歳出では事業終了などで19.7億円減少

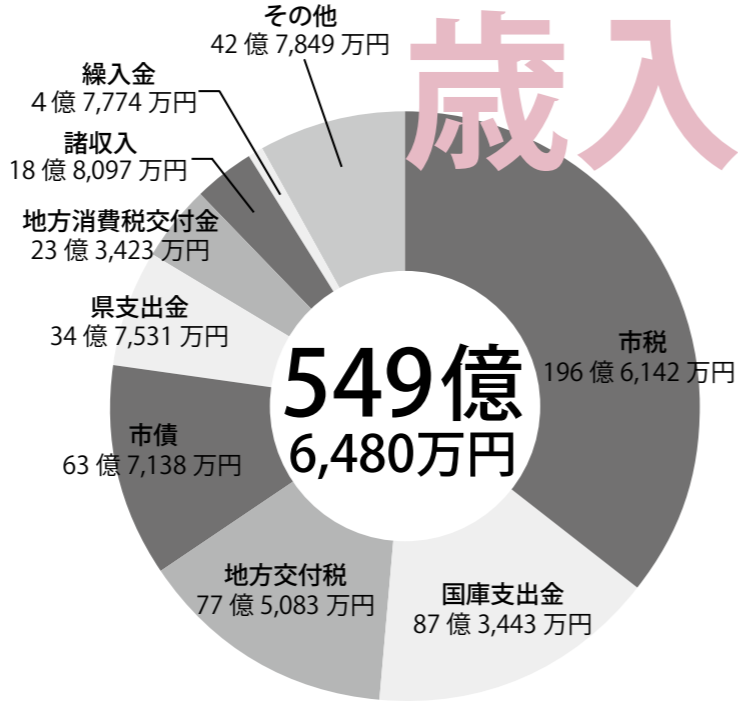
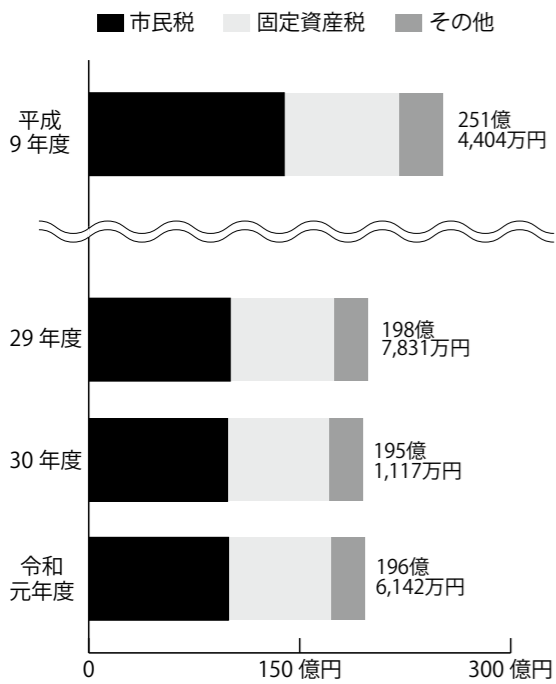
花屋敷団地建替事業(6億円)、都市計画道路豊川橋山手線の整備(5・8億円)、市立認定こども園の整備(4・9億円)などです。全事業の検証に取り組むなど効果的・効率的な行財政運営にも取り組みました。

歳入と歳出の差し引きは黒字ですが、基金からの繰入金で補うことで確保しており、市の財政は非常に厳しい状況が続いています。

決算書は市ホームページなどで公開

市税収入の状況

歳入のうち約197億円を占める市税収入。総額は前年度と比べ約1.5億円増加しました。市税収入はここ3年はほぼ横ばいですが、収入額がピークだった平成9年度に比べ8割程度の水準です。今後も高齢化や地価下落などで、市民税・固定資産税ともに、伸びは見込めないと考えられます。



言葉の意味

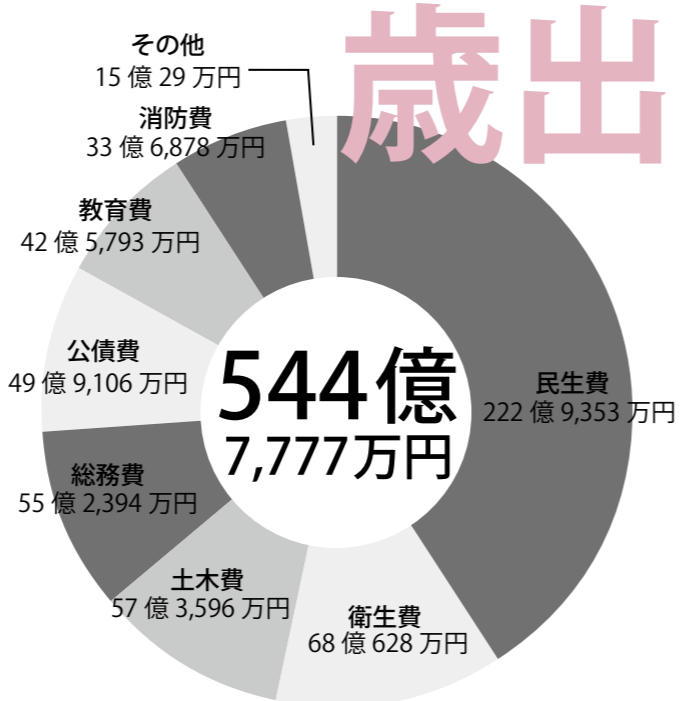
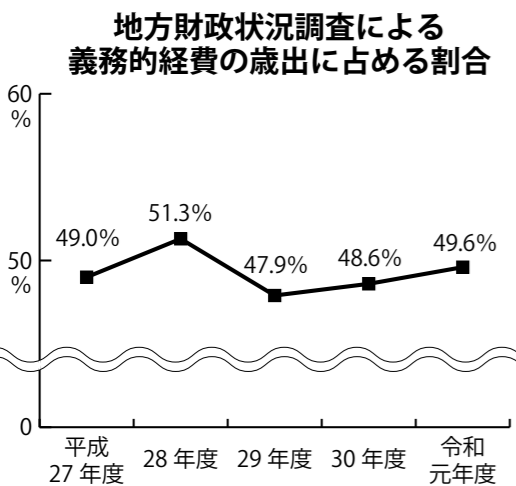
市税…市民が納める税金▷国庫支出金…国が使い道を限定して交付するもの▷地方交付税…国が自治体の財源不足を補てんするため交付するもの▷市債…国や金融機関から借り入れるもの▷県支出金…県が使い道を限定して交付するもの▷地方消費税交付金…消費税の一部が交付されるもの▷諸収入…延滞金や貸付金の返還金など他の歳入科目に含まれない収入▷繰入金…基金からの繰入金▷その他…施設の利用料金や保育所の保育料など

義務的経費の状況

義務的経費とは人件費(職員や議員の給与など)、扶助費(生活保護・児童福祉・障害福祉など)、公債費(市債の返済)を指し、市が自由に抑制できない経費を言います。これらが歳出に占める割合が高まるほど財政的な自由度がなくなります。

令和元年度は8.8億円増加し、歳出に占める割合も1.0%高まりました。

幼児教育無償化に伴い民間施設への給付費が増加したことや、育児休業などで休職中の職員への対応で職員定数が増加したことが主な要因です。



言葉の意味

民生費…高齢者福祉や子育て支援、生活保護など▷衛生費…保健・医療や環境対策、ごみ処理など▷土木費…道路や市街地、公園などの整備や交通安全など▷総務費…文化・スポーツ振興や選挙、市税賦課徴収など▷公債費…国や金融機関から借り入れた市債の返済▷教育費…小・中学校教育や生涯学習、文化財など▷消防費…消防や救急、防災対策など▷その他…議会運営や商工業・農林業の振興など

財政健全化と行政経営の質の向上に取り組めます

事業再検証を行いながらICTの活用などを推進

早いもので令和2年も残り1カ月となりました。新型コロナウイルス感染症への対応など、市民の皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。また、冬の訪れとともに感染が拡大していますので、引き続き感染予防の徹底をお願いいたします。

さて、この広報誌では令和元年度の決算および財政状況について掲載しています。令和元年度の予算は、私が市長就任後初めて編成したものです。皆さまのご協力により、1年間の財政状況を示す実質単年度収支は、基金からの繰り入れはあるものの、2年ぶりに黒字を確保することができました。

しかし、依然として本市の財政状況は県下でもワーストレベルであり、財政健全化は市政運営を進める上で最も重要な課題だといえます。

本市では令和元年度からの3年間を財政健全化の集中期間と位置付け、全事業の再検証に取り組んでいます。令和元年度は市事業の約3分の1に当たる95事業について見直しを実施し、結果的に

17事業を廃止するなどの取り組みを進めました。厳しいながらも改善の見通しが見えてきたところです。

現時点では、コロナ禍による経済状況の先行きを見通すことは困難であり、来年度に急激な景気回復を望むこともできず、市税収入への影響は避けられません。市としては今後も厳しい財政状況が継続することを前提に、引き続き財政健全化を進めます。

ただ、この厳しい状況は、市政を変えるための大きな契機でもあります。単に財政を切り詰めることに注力するのではなく、ICTの活用による行政の効率化や行政サービスの在り方など、行政経営の質の向上に向けて取り組んでまいります。



市長 越田 謙治郎